

# 矢沢永吉は間違っていない！

## ーライブ帰宅困難者発生事件ー

リスク管理研究所 高市幸男

### 1. 事件の概要

2022/9/18 台風 14 号が近づいている中、矢沢永吉は開催を望むファンの声に応え、ライブを執行した。公式ホームページで「自身の判断で必ず安全を確保できる方、帰路につける方のみ」の来場を呼びかけ、来られない人には返金すると伝えていた。当日、地下鉄が停止、タクシー待ちが数百人規模となり、足止めをくらう来場者が続出した。

ネットでは、「ファンの自己責任で開催って無責任では？」「危険でも行っちゃうのがファンの心理」「台風でも開催してくれてファンは喜んでる」「主催側は忠告してるし、あとは客が判断すること」と賛否両論があがった。

### 2. 反対意見

- ・50 周年記念ツアーとあって矢沢永吉の集大成のようなものであり、楽しみにしていた熱心なファンが開催希望するのは当然、開催となれば帰路の有無を考えずに参加する。
- ・気象庁が「命を守る行動を」と呼びかけている中で、「自己責任で行っても仕方ない」とは言えない。
- ・ケガ人や亡くなった人が出てしまうと今後開催できなくなる。ファンの自己責任の問題ではなくなる。
- ・「自己責任」を免罪符のように振りかざす人が多くなると、必ず被災者が発生する。
- ・帰宅困難者が出ることは十分に予測できたので、主催側が運行バスを出したり、終了後のドームを避難所として使えるように調整するなどの、対応策を準備すべきである。
- ・「帰路については法的な責任を取る必要はないだろう」と主催者は責任を感じていない。
- ・福岡 PayPay ドームは海のすぐ側に位置し、ドーム周辺は 1m 以上の高潮位浸水想定区域に指定されている。福岡県警はライブ開催前、主催者に対して観客をはじめとする安全配慮を申し入れていた。
- ・福岡市全体に警戒レベル 4 の「避難指示」が出ていた。バスや地下鉄、JR など主要交通機関が止まることはほぼ確定的だった。
- ・ライブは会場設営や来場者の整備など、大勢のスタッフやアルバイトがいる。主催者が安全の確保を最優先に行うべきである。

### 3. 賛成意見

- ・開催を希望するメールが極めて多数届いていた。

- ・参加を断念するファンに対しては返金手続きがなされている。
- ・参加希望者に対しては、「ご来場いただく方は、ご自身の判断で必ず安全を確保できる方、帰路につける方のみご来場ください。決してご無理なされず、ご自身で判断してください」と、注意喚起をしている。
- ・九州の人の台風に対する備えはレベルが高く、その上で九州のファンは参加している。
- ・参加者の満足度は高かった。
- ・主催者の英断に感謝する声もあった。
- ・会場内はほぼ満席だった。
- ・台風被害に巻き込まれたファンはいなかった。
- ・コンサート終了時点での福岡市内は、予報されたほどの風雨に晒されていなかった。

#### 4. 判断

- ・近年、気象庁の発する予報は大ききなものが多く、「オオカミ少年」化し、自治体は責任回避のために危険性を発するのみ、交通機関は事前に運航中止を決定するなど、リスク回避の姿勢が強く出ている。
- ・参加判断に関する情報は十分提供され、参加の決断はファン個人に任されている。よって仮に被害を受けても、それは参加を決断したファン個人の責任であり、主催者や交通機関、自治体に責任を求めるのは困難である。
- ・主催者に帰路の安全まで責任を持たせるには、資金負担もあって困難である。仮に資金負担した場合、それはチケット料金に反映されるため、他のファンに金銭的負担を押し付けることになる。
- ・反対意見は、ライブ参加者ではなく第三者からのものである。それも推測や感覚に基づく一般論であり、主体性、情勢判断に欠ける。
- ・多数の出席で会場はほぼ満席、参加者の満足度は高かった。予報ほどの風雨はなく、被害を受けたファンはいなかったという厳然たる事実が存在する。

人は身の回りに数多くのリスクを抱えている。もし、全てのリスクを回避するなら、全ての行動をストップしなければならず、生活が成り立たない。個人は自己の責任において、リスクを抱えながら決断・行動をしているのである。その決断・行動は、学校・仕事に行くこと、旅行に行くこと、スポーツをすること、映画を見に行くこと、ライブに参加することと同じである。よって「矢沢永吉のライブ実施は、その決断・対応に於いて間違いはない」と判断される。

以上